大阪府の教育費全国一

写真は日経 9 月 22 日朝刊。都道府県別の物価差を示した総務省の 2021 年消費者物価地域差指数で物価を構成する 10 大費目のうち、授業料や教科書・学習参考教材、補習教育・予備校などにかかる教育費が最も高いのは大阪府だった。2 位も京都府と、教育熱の高い関西圏の自治体が上位を占める。

大阪府や京都府は中高でも受験人気の高い私大付属校が多い。国や自治体の無償化の枠を超えて授業料が高いのに加え、受験準備で低学年から学習塾や家庭教師に教わる子どもも多くなる。学習塾や家庭教師に学ぶ子どもの割合が高いほど、教育の需要は大きく物価も高い。また大学進学時などに県外に流出する子どもが少ないほど、需要を囲い込めて物価は高まりやすい。

大阪府は全国平均を 100 とした教育の指数で 121.2 だった。全国平均より 2 割以上高い。府によると、府内私立中学 61 校のうち、大学を経営する学校法人の付属校は 47 校と 8 割近くを占める。多くが高所得世帯を狙った難関高であり、教育費無償化の枠を超えて授業料も高い。受験準備などで学習塾などに通う子どもも大阪府内は多い。21 年度全国学力・学習状況調査によると、府内の学校に通っていて学習塾や家庭教師に教わっていない小学生は 46.9%、中学生は 26.0%といずれも全国平均(52.6%、36.4%)より少ない。大学進学時などに府外に出る子どもも少ない。21 年住民基本台帳人口移動報告をみると 15〜19 歳は 2810 人の転入超過となっており、教育需要を囲い込んでいる。

物価編 教育費

教育費の都道府県ランキング

順位	地域	2021年	19年差
1	大阪府	121.2	12.0ポイント
2	京都府	116.4	0.8
3	滋賀県	115.9	6.8
4	和歌山県	113.0	4.4
5	東京都	109.5	2.8
6	神奈川県	107.7	▲4.2
6	兵庫県	107.7	2.2
8	大分県	104.1	▲1.3
9	石川県	102.1	▲1.4
10	福井県	101.9	▲5.0
11	山形県	100.2	▲4.5
12	広島県	98.7	▲0.9
13	栃木県	98.3	▲1.5
14	愛知県	98.1	▲0.1
15	埼玉県	97.8	▲1.0
16	宮城県	97.5	▲4.8
17	鹿児島県	97.3	4.4
18	奈良県	97.1	2.9
19	徳島県	96.4	0.3
20	三重県	95.6	▲4.2
21	千葉県	95.3	▲2.5
22	宮崎県	94.2	3.5
23	青森県	94.0	0.5
23	福島県	94.0	2.2
25	島根県	93.9	▲2.7
26	高知県	93.4	1.0
27	北海道	92.9	▲0.6
28	新潟県	92.5	▲1.3
28	香川県	92.5	▲0.9
30	岐阜県	92.2	▲0.3
30	福岡県	92.2	▲4.0
32	鳥取県	91.3	0.0
33	佐賀県	91.2	▲3.3
34	熊本県	90.8	▲2.4
34	沖縄県	90.8	▲2.6
36	茨城県	89.9	0.1
37	岩手県	89.7	▲0.3
38	岡山県	88.0	3.6
39	山梨県	87.7	▲2.2
39	長野県	87.7	▲0.3
39	長崎県	87.7	▲2.8
42	秋田県	85.6	▲3.3
43	静岡県	84.8	▲1.2
43	山口県	84.8	▲1.7
45	愛媛県	84.6	▲9.5
46	富山県	81.0	▲6.4
47	群馬県	79.4	▲6.0

(注)▲はマイナス

たまたま写真の「教育費の都道府県ランキング」を見ていて、大阪府がトップであり、意外な感じがした。記事を読んで納得したが。大阪の教育について考えさせられることは多いが、教育費からの教育の現実、教育をめぐる住民間の「格差構造」にも注目していきたい。あるところで聞いた話を紹介したい。中学受験であるが、関西の有名な私学に入るために、同じようなパターンで複数受験するという。兵庫の N 高、奈良の T 学園、N 学園などがワンセットらしい。超難関の N 高がだめなら、奈良へと向かう。中高一貫で、有名大学への入学者数が「セールス」ポイントのようだ。奈良の某中学に入学し、大阪から満員電車で通い、そのあと遠くの有名進学塾に行くという。自宅にたどり着くのは、何時だろうか。なんだか「別世界」のようだが、こんな現実もあるらしい。

(2022 年 10 月 6 日)